

『「5つの躰け」で子どもは伸びる』

(濤川 栄太著、海竜社、2001.10.)

本書には、「大人になって子どもから感謝される生き方の基本」という副題があります。冒頭から「イヌ、ネコの躰けには熱心でも、子どもの躰けをしていない日本人」という見出しで始まります。著者が挙げている5つの躰けを紹介します。

第1の躰け **朝晩の挨拶をきちんとしているか**

- ・人として生きることは、挨拶から始まる
- ・挨拶は、何千年もの間に培われた人間の知恵である
- ・家庭で挨拶できない人間が「指示待ち症候群」になる

第2の躰け **自分が不利になっても弱いものをかばっているか**

- ・やさしい子とまじめな子が本当の強い子である
- ・想像力を養う教育をすれば、弱いものをかばう心が育つ

第3の躰け **親のせい、人のせいにしていないか**

- ・「他罰型人間」は、結局、人に愛されない
- ・本当の個性というのは、自己肯定心と他者肯定心とがあふれかえるなかから花開くもの

第4の躰け **思うようにならないことを我慢できるか**

- ・我慢を知らずに育った子どもには、つらい将来が待ち受けている
- ・人間の才能を伸ばすいちばんの秘訣は「期待感」
- ・挑戦、勇気も、耐えることから始まる

第5の躰け **自分のことは自分でしているか**

- ・自分の価値は独自のもの、他人との比較で決まるものではない
- ・いつでも親が選んでいると、子どもは自分の進路に無責任になる
- ・音読を習慣化し、自己充実感を確認する